

中国語

第1 高等学校教科担当教員の意見・評価

1 前 文

令和5年度共通テストを以下の3点をよりどころに、また、報告書（本試験）14ページに記載の8つの観点によって、総合的に検討・評価に当たることにする。

- (1) 共通テストは「高等学校の段階における基礎的な学習の達成の程度を判定し、大学教育を受けるために必要な能力について把握することを目的としている」試験であるという観点に立ち、学習指導要領「外国語」の目標を重視する。

その際、大学教育の基礎力を踏まえ、また、高等学校において英語以外の外国語を初めて履修する者もいることを考慮し、問題作成を行う。

- (2) 教育現場からの「高等学校における学習の成果が総合的・客観的に判断できる出題」となっているかについて、従来からの「基本的要望」が尊重されているかを重視する。

- ・ 細かすぎる難解な語法を問うことはせず、基本的な文法力を問うこと。
- ・ 長文読解は、高校生になじみやすいテーマを選び、内容が抽象的すぎ、論理的に説明が難しいような出題は避けること。
- ・ リスニング試験が実施されないことを補うために、ピンインを重視して出題すること。

- (3) 令和4年度の問題作成部会の見解を参考とすること。

また、本試験と難易度の差が生じないように作成をお願いしたい。

2 内容・範囲

第1問 A～Cは昨年度と同じく発音の基礎を確認する問題であるが、Dはピンインで示された会話文の流れを把握し、抜けている会話文を選択する問題である。リスニング問題を補う問題として、ピンイン学習とともに実際的なコミュニケーションも重視する傾向がある。

第1問 計9問 (計36点)	A	B	C	D
	声母	韻母	声調	ピンインによる会話
	8点(4点×2問)	8点(4点×2問)	8点(4点×2問)	12点(4点×3問)

A 昨年同様、見出し語の下線部の声母（子音）と同じものが選択肢の中にくつつあるかを選ぶ形式であった。提示された語句はみな重要語であり、声母を問う問題として適切である。

問1 “x”と“q”の識別を問う問題。見出し語も選択肢も辞書では重要語であるが、“犠牲”はやや難解である。

問2 無気音の“zh”と有気音の“ch”との判別だが、間違えやすい他の声母（“j”など）を入れても良かったと思われる。

B 韻母（母音）に関する出題である。見出し語も選択肢も重要語であるが、適切である。

問1 “ang”と“an”，“ong”の判別であり、適切である。

問2 “üe”と“ie”の判別であり、適切である。

C 二音節語について、見出し語と声調の組合せが同じものの数を問う問題である。

問1 見出し語も選択肢も重要語であり、適切である。

問2 見出し語も選択肢も重要語であり、適切である。

D 文は会話文と選択肢共にピンインで示してあり、各問の会話文、選択肢共に難解な語句は

なく、ピンイン学習を重視する問題作成となっており評価できる。

問1 “Nǐ xiān gěi dàjiā zuò yíxià zìwǒ jièshào, shúxishúxi gōngzuò huánjìng.” につながる疑問文を正しく捉えることが要求される出題で、良問である。

問2 “Nǐ bú shì~ma?” の反語の用法の理解と「いつも10時には寝ると言ってたじゃないの。」につながる会話文の流れを理解する適切な問題である。

問3 「まだ咳をしているから大きな病院で見てもらいなさいよ。」につながる理解を問う問題であり、適切である。

第2問 空欄補充の問題で選択肢の類義語から適当なものを選ぶ問題。

A 適当なものを選ぶ空欄補充の問題。類義語の知識が要求される。選択肢は重要語である。

問1は、“動”の文字を使った語句から“写”という動詞を目的語にできるのものを選ぶ設問だが、少し容易であったように思われる。一考を要する。

問2 可能補語による「～とまでは言えない」という表現を選択肢の問題で、適切な問題と言える。

問3 どんな主体が“兴趣”をもたらしたのか、“引起兴趣”とすぐに結び付けてしまわず、文の構造を正しく捉える必要がある。良問である。

B 類義語を問う問題。「適当でないもの」を選ぶという設問形式は難度が高くなるが、選択肢に難解な語句はなく、いずれも重要語である。

問1 “心理状态”を目的語にとれるものを選ぶ設問。適切な設問である。

問2 “大批”は、“占”を修飾できない。修飾構造の理解を試す適切な設問である。

問3 “为～”と組み合わせることのできる適切な動詞を選ぶ問題。文の構造を考えさせる良問。

C 短文中の空欄に入れる適語を8つの選択肢から2つ選ぶもの。より文章の流れの理解が必要となる。

16 は“不是～就是…”の形が適切と文意から判断できる。17 は疑問詞と共に使われる副詞を選ぶと分かる。文章理解や文脈を複合的に考えさせる良問である。

第3問 和文中訳、中文和訳を通して、中国語の表現力、理解力を測る問題である。単語の難易度は高くなく学習してきた文法事項や語法を活用、応用し、熟考することにより正答できる設問になっている。

A 和文中訳問題で、与えられた8つの単語から4つ選び並び替えるもので、選択肢の語句も重要語の範囲内であり、文法や語句の用法の理解を確認する問題として適切である。

問1 兼語文の理解を見るもので「～によろしく」はよく使う文であり、良問である。“王先生叫我替他向你问好。”

問2 “连～都…，就”の理解と“无法”，“无论”，“宁可”の意味用法を確認する設問であるが、やや難解である。

問3 “不管”と“尽管”の用法の違いを問う基本事項を押さえた設問だが、やや難解である。

B 和文中訳の問題で、選択肢の中国語文はピンインで示され、口語的な表現や基本的な文型の理解を問う問題である。

問1 選択肢は“只有～才”，“只要～就”，“既然～就”，“即使～也”の副詞の呼応の意味用法の理解を問うもので、良問である。

問2 「涙をのむ」から“忍”，「しか」から“只好”を導き出せるか、丁寧に選択肢を読み理解を見る適問である。

C 中文和訳の問題で、問いの文の中国語はピンイン表記である。

問1 “早”が何を修飾するか、状態の変化の“了”が訳せているかを見るもので、選択肢も工夫されており、適切である。

問2 基本的な語を使った表現であり、適切な設問である。

第4問 本試験とほぼ同様の出題形式で、Aは「文章・表と会話文・作文」、Bの「会話文・案のまとめ・ポスターとその説明」があり、それぞれ複数の言語材料から総合的に判断する融合問題である。

A 大学に入学して科目を選択することが題材となっている。高校生にとってはややなじみの薄い題材であり、題材設定に考慮を求めたい。

問1 文章を読み、その内容について適当な日本語文を選択肢から選ぶもので、内容理解の設問としては短時間で要点を押さえているかを試す適切な設問である。

問2 (1)・(2)共に会話の流れと時間割を照らし合わせて、会話中の空欄に入る適切なものを選択肢から選ぶ問題。正確に情報を読み取れば正答できる適切な設問である。

問3 (1)は時間割と日記を照らし合わせて4時限目に授業がいくつあるかを問う問題。(2)は日記の内容と前出の会話から得た情報も合わせて時間割を照らし合わせ、会話中の空欄に入る適切なものを選択肢から選ぶため、短時間で正確に情報を読み取る点が難しい。

B 国際交流クラブで活動のプログラムについて話し合う場面である。

問1 会話文の内容と一致しているものを選択肢の問題。凝った選択肢は無く、ポイントを押さえた読みを求める適切な設問である。文中の“房东”は注釈が必要かと思われる。

問2 企画案を内容と目的に分けシートにまとめる設問。シートは6枚だが選択肢は7つあり、選択するのに時間を要する。限られた時間の中で冷静に考え判断することが求められる。問題全体の分量とのバランスを考慮していただきたい。

問3 (1) 説明文の空欄に適切な文を入れる問題。それまでの資料と照らし合わせて考え正答できるが、時間を要する。Bの問題の流れからするとR市の要求がやや唐突に出てきた感じがする。

(2) 残った案に加わった事柄を適切に表現した選択肢を選ぶ。問2の資料を見比べるのに時間と手間がかかる。

第5問 二人の兄弟が一緒に商売をしていたが、ある日棚の上に置いたお金が無くなったことをきっかけに仲たがいをし、それぞれが店を別々に構えた。何年も経って借借書を書いておいたことを告げる中年男性が返金に来たことで、兄弟は和解をしたという内容の読解問題である。

問1 空欄に入れる最も適する動詞を選ぶもので、“抢”がやや難解であるが、内容の把握の有無を問う良問である。

問2 “怎么能这么”の意味を見るものであるが、単純であり、下線部自体を工夫する必要があると思われる。

問3 兄の返事に対応する、中年男性の会話を選ぶもので、前後の文のつながりを考えさせる、適切な問題である。

問4 前後の文のつながりを考えさせ、中国語で答える適切な問題である。

問5 当時の兄は何のことで頭がいっぱいだったかを読み取る適切な問題である。

問6 下線部の意味を理解するもので、“冤枉”が難解であるが、前後のつながりや後の文との関係の理解を問う適切な設問である。

問7 兄弟が喧嘩別れするきっかけになった事件の内容理解を問う良問である。

問8 受身“让他感到～”の文章のつながりを見る問題で、適切である。

問9 弟が目に涙をためて言った言葉を前後関係から“这么多年了，～！”の内容理解を問う適問である。

問10 本試験と比べ選択肢の文は短く，紛らわしい日本語もなく，本文の内容理解を見るにはやや簡単であり一考を要する。

3 分量・程度

今年度は第5問の量は33文字×33行（問題箇所・句読点・改行含む）であり，昨年度共通テスト追・再試験の33字×32行から，やや増えた。より速く読み内容を把握する必要がある。文の文字数は900字以上で，文章中に難解な単語は少なくなく高校生にとって適切な内容である。第4問も資料や会話，文章が多くなり全体としてはより速く読む力が更に求められている。

本試験同様，追・再試験の設問は，高校生にとって抽象的すぎず難解なレベルのものも多くなり，適切な出題であった。第4問は資料を照らし合わせて考えるのに時間をとられたと考えられ，一方，第5問の長文は本試験と比べストーリー性のあるやや簡単な内容であった。できれば，第4問，第5問ともに本試験と同レベルの問題設定が望まれる。

4 表現・形式

本試験と同じ形式と配分である。

内容	発音・ピンイン	語句	表現力	複合的な資料の読み取り	長文読解
設問	第1問	第2問	第3問	第4問	第5問
設問数	9	7	7	9	10
配点	36点	32点	28点	52点	52点

5 要約

総じて，令和5年度追・再試験の問題は，設問形式やその内容において，また単語の選択も高校生レベルの出題が多く，高等学校から中国語を学び始めた受験者を意識した出題者の工夫が感じられた。一つ一つの問題を見ると，丁寧に見れば正答できるものではあるが，文章を正確に読んだ上で複数の資料を見比べなければならず，総合的な量としては限界であろう。

今後とも「高等学校における学習の成果が総合的・客観的に判断できる出題」であることを大前提として，本試験と同レベルの問題作成に当たっていただくことを希望する。

各設問を総合的に見て高等学校3年間で学ぶ中国語のレベルに近付いてきたと考えられる。そうした中で思考力・判断力・表現力等を総合的に問う問題形式が見られ，評価できる。

受験者数は増加し，外国語の受験状況の割合としても少しずつ増えており，外国語における中国語科目の社会的なニーズの高まりを示していると考えられる。今後も共通テストの科目として有効に活用されることを希望する。全体としては概ね適切な問題だったが，今後の出題として以下の点にご考慮いただきたい。

- ・ 今年度高得点だった設問を次年度に難易度を極端に上げないようにしていただきたい。
- ・ 第1問の単語の知識を問う問題では，日頃学んでいる見慣れた単語を選んでいただきたい。
- ・ 第4問については図表等を効果的に使った作問を期待したい。第5問の文章量は，設問の難易度とのバランスを考慮していただきたい。内容が抽象的すぎないような配慮をお願いしたい。
- ・ 高等学校から中国語学習を始めた生徒たちが「是非受験したい」と思う出題をお願いしたい。
- ・ 今年度の報告書に即して，高等学校における学習の成果が総合的・客観的に判断できる出題を今後ともお願いしたい。